

都市再生整備計画 フォローアップ報告書

犬山駅周辺地区

令和6年10月

愛知県犬山市

1. 数値目標の達成状況の確認(確定値)

様式4ー① 都市再生整備計画に記載した目標を定量化する指標の確定

指 標		単位	従前値	目標値	事後評価				フォローアップによる確定値		計測時期	フォローアップ時点での達成度	確定値が評価値と比較して大きな差異がある場合や改善が見られない場合等		総合所見	
					評価値	見込み・確定の別	目標達成度	1年以内の達成見込み					理由	改善策の方向性		
指標1	交流施設の利用率	%	30	40	31	確定 見込み	●	△	あり なし	●	28.6	R6年7月	△	コロナ禍以前の利用者のうち、一定数の利用が減少。	■ 改善策はそのまま □ 改善策に補強が必要 □ 新たに改善策をたてる	令和4年度と比較し利用率は減少したが、利用者数は増加した。
指標2	市民活動参加意向	%	66	70	53	確定 見込み	●	×	あり なし	●		R 年 月			□ 改善策はそのまま □ 改善策に補強が必要 □ 新たに改善策をたてる	指標1交流施設の利用率の伸び悩みを踏まえると、市民活動減少に伴い活動意向も減少したと考える。
指標3	観光客の城下町への再来訪意向	%	86	90	100	確定 見込み	●	○	あり なし	●		R 年 月			□ 改善策はそのまま □ 改善策に補強が必要 □ 新たに改善策をたてる	城下町周辺や犬山駅西駅前広場の整備により目標値を上回る評価値となった。
指標4	犬山遊園駅の年間乗降客数	千人	412	422	245	確定 見込み	●	×	あり なし	●	317	R6年9月	×	コロナ禍で減少し、回復傾向にはあるが従前値までは回復していない。	■ 改善策はそのまま □ 改善策に補強が必要 □ 新たに改善策をたてる	令和4年度と比較し増加傾向にある。
指標5						確定 見込み			あり なし			R 年 月			□ 改善策はそのまま □ 改善策に補強が必要 □ 新たに改善策をたてる	

事後評価シート 様式2-1及び添付様式2-①から転記 ※全ての指標について記入

※フォローアップの必要のある指標について記入

※全ての指標について記入

様式4ー② その他の数値指標の確定

指 標		単位	従前値	目標値	事後評価				フォローアップによる確定値		計測時期	フォローアップ時点での達成度	確定値が評価値と比較して大きな差異がある場合や改善が見られない場合等		総合所見
					評価値	見込み・確定の別	達成度	1年以内の達成見込み					理由	改善策の方向性	
その他の数値指標1						確定 見込み					R 年 月			☐ 改善策はそのまま ☐ 改善策に補強が必要 ☐ 新たに改善策をたてる	
その他の数値指標2						確定 見込み					R 年 月			☐ 改善策はそのまま ☐ 改善策に補強が必要 ☐ 新たに改善策をたてる	
その他の数値指標3						確定 見込み					R 年 月			☐ 改善策はそのまま ☐ 改善策に補強が必要 ☐ 新たに改善策をたてる	

事後評価シート 様式2-1及び添付様式2-②から転記 ※全ての指標について記入

※フォローアップの必要のある指標について記入

※全ての指標について記入

2. 今後のまちづくり方策の検証

様式4ー③ 「今後のまちづくり方策」の進捗状況

事後評価シート 添付様式5ー③に記載した 今後のまちづくり方策(事項)		実施した具体的な内容	実施した結果	今後の課題 その他特記事項
・成果を持続させるために 行う方策	観光客の快適性や利便性向上に向けた整備	滞在快適性向上区域を定めた新たな都市再生整備計画(まちなかウォーカブル推進事業)を策定し、令和6年度より事業を開始した。	木曽川河畔空間の活性化や、本町通りの路面サイン設置による交通安全性の高い歩行者空間の整備を予定している。	「木曽川河畔空間整備基本構想」に基づく河畔空間の整備に向けて、実現可能な整備方針の決定や、かわまちづくり計画の策定、実証事業等の継続による機運を高める取組が必要である。
改善策 ・まちづくりの目標を達成するための改善策 ・残された課題・新たな課題への対応策 ・その他 必要な改善策	市民交流センター「フロイデ」の利用促進と、市民の日常的な交流機会の創出に向けた取組の実施	「公共施設使用料の見直しに関する基本方針」に基づく3年毎の使用料の定期見直しを令和4年度に行い、令和6年4月1日以降の使用料は減額となった。	利用率は低迷しているが利用者数は増加した。なお、施設内に整備した協働プラザを運営する団体が設けたフリースペース等が幅広く利用されたことにより、これまで貸館利用をしていた利用者のうち、一定数の利用者が推移したと推測される。	コロナ禍により利用を中断した団体等に対して、再利用の促進を図る必要がある。
	観光客の公共交通利用促進に向けた取組の実施	滞在快適性向上区域を定めた新たな都市再生整備計画(まちなかウォーカブル推進事業)を策定し、令和6年度より事業を開始した。	城下町と鉄道駅を結ぶ木曽川河畔空間の活性化(ハード整備)に向けた事業を予定している。	鉄道利用者の増加に向けて、城下町エリアの観光資源と鉄道駅を結ぶ河畔空間の整備や、実証事業等の継続による機運を高める取組が必要である。

事後評価シート 添付様式5ー③から転記

様式4ー④ フォローアップにより新たに追加が考えられる今後のまちづくり方策

追加が考えられる今後のまちづくり方策	具体的内容	実施時期	実施にあたっての課題 その他特記事項

都市再生整備計画(第5回変更)

いぬやまえきしゅうへんちく
犬山駅周辺地区

あいち いぬやま
愛知県 犬山市

令和6年3月

事業名	確認
都市構造再編集集中支援事業	☐
都市再生整備計画事業	☒
まちなかウォークアブル推進事業	☐

目標及び計画期間

様式(1)－②

都道府県名	愛知県	市町村名	犬山市	地区名	犬山駅周辺地区	面積	152 ha
-------	-----	------	-----	-----	---------	----	--------

計画期間	平成31年度～令和5年度	交付期間	平成31年度～令和5年度
------	--------------	------	--------------

目標
城下町地区の観光振興と市民活動と多彩な交流促進によるコンパクトな市街地形成を実現する都市拠点の形成
目標1:市民主体のまちづくり活動の充実やインバウンドの増加に対応した交流拠点づくり 目標2:城下町地区と木曽川河畔エリアの魅力向上による観光振興など地域特性を活かしたまちの継続的発展

目標設定の根拠
まちづくりの経緯及び現況 ・本地区は、犬山市北部の中心市街地に位置し、犬山駅を中心とした都市拠点を形成するとともに、駅西側の城下町では犬山城や犬山祭に代表される歴史的風致が市民活動と一体となって受け継がれている。 ・城下町地区では、平成16年度～平成20年度にまちづくり交付金事業を活用して、現道幅員まで見直しを行った都市計画道路の電線類の無電柱化、景観に配慮した美装化などのハード事業や住民と協働した賑わいのあるまちづくりに必要なソフト事業を一体的に実施した。また、平成21年3月11日には、歴史まちづくり法に基づく「犬山市歴史的風致維持向上計画」の認定を受け、犬山城下町の更なる歴史的風致の維持および向上の取組みを推進するとともに、平成26年度～平成30年度に城下町地区都市再生整備計画事業により、国宝犬山城を中心とした歴史観光まちづくりによる、犬山市街地の活力向上を図ってきた。 ・一方で、散在する公共施設の低い効率性や市民活動拠点の老朽化、民間駐車場等による都市の空洞化が課題となっているほか、これまでのまちづくり展開による市民等のまちづくり活動の活発化が図られている状況にあり、都市拠点である犬山駅周辺地区の交流機能の充実と、城下町地区の更なる歴史的環境整備を図ることが求められている状況にある。 ・したがって、城下町内で老朽化が著しく景観阻害となっている福祉会館を取り壊し、その機能を駅周辺の国際観光センターに移転し、市民交流センターとして再整備することで、既存公共施設等の効果的・効率的利用を促進するほか、景観形成助成や歴史的風致形成建造物保存修理助成を実施することで、低未利用地の活用や歴史的風致形成建造物の存続を促進し、都市のスポンジ化の抑制を図り、コンパクトな市街地形成を実現する都市拠点を形成するものである。
課題 ・福祉会館の老朽化・景観阻害に対応するとともに、市民活動等の活性化・多様化に対応した活動拠点・交流拠点の確保が必要である。その際、既存公共施設の効果的・効率的活用が求められる。 ・城下町地区の修景整備等により、歴史的景観形成が進んでいる中で、観光地としての魅力と住環境の更なる向上を図るため、民間主導による景観形成や歴史的建築物の保存修理等を継続して実施していく必要がある。 ・中心市街地に子育て支援施設・公共施設の整備とあわせて、これらが活用できるネットワークの構築が求められている。 ・古いまちなみなど歴史的資源はまちづくりの中で活かされていないだけでなく、徐々に失われている。中心市街地の核となる施設の整備とともに、市民がまちに対する誇りや愛着を取り戻し、来訪者が回遊して時間消費ができるよう、地域資源を活かしたまちづくりが望まれる。 ・中心市街地の幹線道路の一部ではバリアフリー化や歩道の整備も不十分であり、安心して歩ける歩行者空間の確保が望まれている。 ・自家用車を利用できない高齢者が日常生活に必要なサービスを受けることができるよう既成市街地外縁部における生活サービス機能の確保のほか、中心市街地に集約整備する公共・公益サービスに公共交通を利用してアクセスしやすくなるよう、既成市街地外縁部及び中心市街地の双方において駅・バス停周辺の環境整備を一層推進する必要がある。
将来ビジョン(中長期) ■第5次犬山市総合計画 改訂版(平成29年度～平成34年度) ・重点施策1 活躍の場づくり「学びと遊びのまちへ」・・・市民が活動し交流する場づくり ・重点施策2 産業の活性化「商売繁盛のまちへ」・・・観光施設間の連携と情報発信 ・重点施策3 定住促進「多様な暮らしができるまちへ」・・・既存ストックの活用・交流の機会と場づくり ■犬山市都市計画マスタープラン中間見直し(平成29年) ・城下町地区の歴史文化と地元住民の暮らしを礎とした観光交流拠点の形成 ・都市拠点・地区拠点の形成(犬山駅周辺地区において、市役所、図書館、保健センター等の全市レベルの行政サービス機能の高い集積を活かし、全市民の生活を支える都市拠点の形成を目指す) ■犬山市歴史的風致維持向上計画 ・基本方針:「まちづくりと連携した歴史的施設及び公共施設の保全」「市民意識の向上と、歴史文化を継承する担い手の育成」「文化施設の充実」 ■犬山市公共施設等総合管理計画 ・福祉会館および国際観光センターは、すぐに施設マネジメント(施設の複合化や統廃合)が必要な施設として位置づけられている。

目標を定量化する指標							
指 標	単 位	定 義	目標と指標及び目標値の関連性	従前値	基準年度	目標値	
						目標値	目標年度
交流施設の利用率	％	市民活動、交流活動等で利用される会議室、多目的室等の平均利用率	市民活動及び観光振興の交流拠点として、施設の利用率の向上を図り市民および観光客等の交流の向上を図る。	30%	平成29年度	40%	令和5年度
市民活動参加意向	％	市民意識調査にもとづく市民の市民活動への参画意向の割合	市民活動の交流拠点の整備により、市民活動への参画意向の向上を図る。	66%	平成29年度	70%	令和5年度
観光客の城下町への再来訪意向	％	城下町来訪者へのアンケート調査に基づく再来訪意向の割合	観光客の来訪回数を増やすことで、市民・観光客との交流機会を増加する。	86%	平成30年度	90%	令和5年度
犬山遊園駅の年間乗降客数	千人	犬山遊園駅の年間乗降客(定期利用者を除く)の数	城下町と木曽川河畔エリアの回遊性向上などにより、新たな賑いの創出を図る。	412千人	平成30年度	422千人	令和5年度

計画区域の整備方針		方針に合致する主要な事業
○市民主体のまちづくり活動の充実やインパウンドの増加に対応した交流拠点づくり ・既存公共施設を効果的・効率的に活用するとともに、既存施設の機能との相乗効果を図り、交流拠点を形成する。		■基幹事業 ・市民交流センター整備事業(既存建造物活用事業) □提案事業 ・既存建造物活用促進事業
	○城下町地区と木曽川河畔エリアの魅力向上による観光振興など地域特性を活かしたまちの継続的发展 ・民間による景観形成・歴史的建造物等の保存・修理を促進し、城下町地区の魅力と住環境の更なる向上を図る。 ・犬山駅西にホテル建設が予定されており、旅行者が快適かつ便利に利用できる駅前空間を整備する。 ・城下町と木曽川河畔を繋ぐ歩道を切れ目なく整備するなど、ネットワーク・利便性を強化し、居心地の良い歩行空間を形成する。	■基幹事業 ・景観形成助成事業(街なみ環境整備事業) ・歴史的風致形成建造物保存修理助成事業(街なみ環境整備事業) ・犬山駅西駅前広場整備事業(地域生活基盤施設、高質空間形成施設) ・市道犬山395号線歩道設置整備事業(地域生活基盤施設、高質空間形成施設) ・彩雲橋公衆便所改築事業(高質空間形成施設) □提案事業 ・木曽川河畔歩行空間活用促進事業 ○関連事業 ・市道城前線道路整備事業
その他		
○交付期間中における円滑な事業進捗と目標に向けた効果を上げるために、事業進捗に応じた適切なモニタリングを実施する。		

様式(1)-④-2

(金額の単位は百万円)

統合したB/Cを記入してくだ

...B

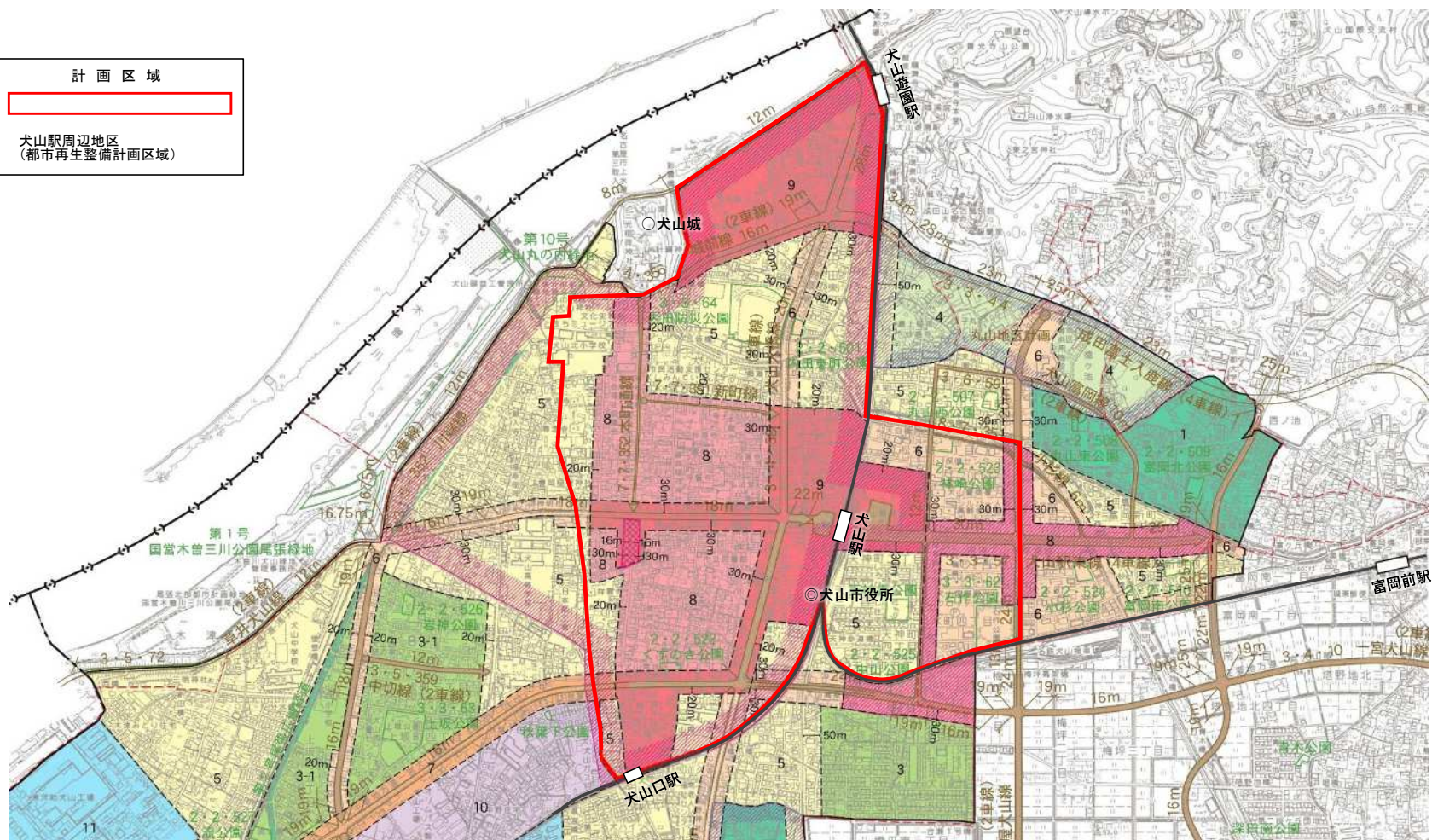
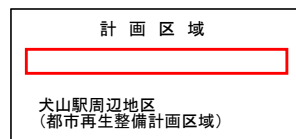
Σ(A+B)	219.9
--------	-------

面積

152 ha

区域

大字大山字北古券、西古券、東古券、南古券、上り屋、末友、神ノ木、柳町、専正寺町、薬師、薬師町、木ノ下、愛宕、東畑、高見町、富士見町、北天神、西林崎、東余坂、天白、西畑、御門先、西大門先、大門先、寺下、中道、寺畑、堀ノ内、三反田、身内田、敷下、東山下、天王坂、天神町1丁目、天神町2丁目、天神町3丁目、天神町4丁目、天神町5丁目、松本町1丁目、松本町2丁目、松本町3丁目、松本町4丁目、内田東町



区域面積152ha

計画区域

犬山駅周辺地区
(都市再生整備計画区域)

凡例

- 基幹事業 (Yellow)
- 提案事業 (Light Blue)
- 関連事業 (Dashed Line)

基幹事業：地域生活基盤施設、高質空間形成施設

- 市道395号線歩道設置整備事業
- 彩雲橋公衆便所改築事業

関連事業：市道城前線道路整備事業

関連事業：犬山市福祉会館解体工事

基幹事業：地域生活基盤施設、高質空間形成施設

- 犬山駅西駅前広場整備事業

基幹事業：街なみ環境整備事業

- 景観形成助成事業
- 歴史的風致形成建築物保存修理事業

提案事業（地域創造支援事業）

- 木曽川河畔歩行空間活用促進事業

基幹事業：既存建築物活用事業（高次都市施設・地域交流センター）

- 市民交流センター整備事業

提案事業：既存建築物活用促進事業

半径1km図